

区 分	専門外国語科目	担当教員	平瀬 洋子			
授業科目	英語ベーシック					授業形態
英 訳	Basic English					単独
配当年次	1 年次	前期	必選別	選択	単位数	1 単位
【授業の目的】 英語の基礎力を定着させ、英語力を向上させることが目的です。特に、リスニング教材を使って、日常生活でよく使うフレーズを学び、それを英会話でも使えるように暗記します。英会話で暗記したフレーズが使えるようになると、徐々に英語に対する苦手意識がなくなり、英語に興味を持ち始めます。英語力をアップさせるには、本人のやる気と自信が必要です。相手が話している内容を聞き取る練習から始め、この半期でしっかり基礎力を身につけます。						
【授業の到達目標】 簡単な英語で、自分の意志が伝えられるようになること。						
【授業の概要】 授業では、オフィスで使う電話や受付の対応の仕方をはじめ、様々な場面での会話をリスニング教材を通して学びます。英文の書き取り問題や、簡単な英文の和訳問題など、数多くの基礎レベル問題にチャレンジします。これから2020年のオリンピックに向けて、ますます多くの外国人が日本を訪問する予定です。とっさに外国人に道を尋ねられても、受講生の皆さんがスムーズに答えられるようになることを期待しています。						
【準備学習(予習・復習)】 1. 毎週、必ず予習しておくこと。 2. 授業中に間違えた問題を復習しておくこと。						
【授業計画】 第 1 回 授業の進め方について説明 第 2 回 Unit 1 就職面接 第 3 回 Unit 2 自己紹介 第 4 回 Unit 3 電話対応 I 第 5 回 Unit 4 電話対応 II 第 6 回 Unit 5 オフィスでの会話 第 7 回 Unit 1~5 の復習 第 8 回 Unit 6 社内での会話 第 9 回 Unit 7 受付での会話 第 10 回 Unit 8 秘書と上司 第 11 回 Unit 9 秘書と来客 第 12 回 Unit 10 機内での会話 第 13 回 Unit 11 ツアーでの会話 第 14 回 Unit 12 ホテルでの会話 第 15 回 Unit 6~12 の復習と練習問題						
【テキスト】 古関博美『New 20 Office Dialogs(新 20 オフィス ダイアログス)』鷹書房弓プレス (ISBN:978-4-8034-1263-5)						
【参考書】 必要に応じて、授業で紹介する。						
【成績評価基準】 課題・小テスト：30% , 授業への取り組み：20% , 中間・期末試験：50%						
【履修要件】 授業にはテキスト、配布資料、辞書を持参すること。						

区 分	専門外国語科目	担当教員	金 廷 祐		
授業科目	韓国・朝鮮語 I				授業形態
英 訳	Korean Language I				単独
配当年次	1年次 前期	必選別	選択	単位数	1単位
【授業の目的】 この授業は初めて韓国語を学ぶ人のための入門クラスで、韓国語の基礎的コミュニケーション能力を獲得することをその目的とするこの授業は、人工語である韓国語の創出起源を理解し、表音文字である各文字の発音と表記の熟達を目指している。とくに、文字の発音に重点を置きながら、基本的な文法と語彙を用いて、簡単な日常会話を行う。					
【授業の到達目標】 前期授業の到達目標は下記のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> ・韓国語文字の読み・書きの習熟を行い、円滑な発音ができるようになる。 ・発音の熟達を基礎に、挨拶や自己紹介などの基本的な日常会話ができるようになる。 ・教科書で学んだ基本文型と語彙を熟達して、簡単な文章を構成する力を習得できる。 					
【授業の概要】 この授業では、韓国語の創出過程を理解した後、表音文字である韓国語の基本構成を学ぶ。主な内容は、動詞・形容詞・存在詞・指定詞（四つの用言＝述語）の区分と語尾の基本的な変化、すなわち、丁寧語・否定文・疑問文・助詞の使い方など基礎的な部分の学習である。必要に応じて韓国映画・K-popといったメディアも活用し、学習した言語を早く使ってみる。					
【準備学習(予習・復習)】 (復習) 配付プリントを整理し前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問としてまとめること (予習) 次回の項を読んでおくこと、不明点をチェックしておくこと					
【授業計画】 第1回 韓国語、朝鮮語、そしてハングル…オリエンテーション 第2回 韓国語の文字とその仕組み 第3回 パッチムって何ですか…子音の一種であるパッチム(終声)、複合母音・子音、濃音などを説明 第4回 おはようございます…習得した文字と発音をいち早く使用した基礎会話 第5回 私はタナカです…最も簡単な平叙文の丁寧表現を学習する。 第6回 あなたは大学生ですか…第5～6回で学んだ基本的な平叙文を利用した疑問文を学習 第7回 私は会社員ではありません…第5～7回で学習した平叙文と疑問文に加えて、否定文を学ぶ。 第8回 これは本です。そして、小テスト…この、その、あの表現を習得。小テスト実施(次回解説) 第9回 ビデオ鑑賞…韓国の文化を映像で楽しむ。その感想を簡潔にまとめ次週まで提出 第10回 この花はきれいです…動詞とともに用言を構成している形容詞を学ぶ。 第11回 話してみましよう…実際韓国の日常生活でよく使われている会話文を習得し実践する。 第12回 どこで学びますか。小テスト(次回解説)…今まで学習したことに助詞等を加えた慣用句を学習。 第13回 3月14日はブラックデーです…漢数詞と固有数詞とに構成される数詞を学習する。 第14回 暑くありませんか…用言の否定表現を学ぶ。 第15回 総まとめ					
【テキスト】 巖基珠、金三順、金天鶴、吉川友丈『韓国語の初歩 改訂版』白水社(2010年初刷)					
【参考書・参考資料等】 韓日辞書(たとえば『日韓・韓日辞典』民衆書林)					
【成績評価の方法等】 期末試験(50%)、授業に対する姿勢・課題解決度(30%)、小テスト(20%)で評価する					
【履修要件等】 <ul style="list-style-type: none"> ・相乗効果が高いため、韓国・朝鮮語会話Ⅰとの並行履修をおすすめする。 ・4～5月の学習がその後の進捗と楽しさをほぼ決定づけるので、必ず参加すること。 					

区 分	専門外国語科目	担当教員	金 廷祐		
授業科目	韓国・朝鮮語会話 I				授業形態
英 訳	Korean Conversation I				単独
配当年次	1年次 前期	必選別	選択	単位数	1単位
【授業の目的】 この授業は初めてハングル（韓国・朝鮮語）を学ぶ人のための入門クラスで、韓国朝鮮語 I の講義と並行しながら、ハングルの基礎的コミュニケーション能力を獲得することをその目的とする。					
【授業の到達目標】 この授業の到達目標は以下のとおりである。 ・韓国語の簡単な単語や文章が読めるようになる。 ・あいさつや基本的な表現を用いて、韓国語で自己紹介や簡単な会話ができるようになる。 ・人工語である韓国語の創出起源を理解し、表音文字である各文字の発音と表記ができるようになる。					
【授業の概要】 前期では、まず韓国語文字の読み・書きの習熟による円滑な発音の習得を目指す。語学のさらなる上達を考えると欠かせない基礎部分である発音の熟達を基礎に、挨拶や自己紹介などの基本的な日常会話の習得も副産物として期待する。必要に応じて映画やK-popといったメディアも活用し、学習した言語を早く使ってみよう。					
【準備学習(予習・復習)】 (復習) 配付プリントを整理し前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問としてまとめること (予習) 次回の項を読んでおくこと、不明点をチェックしておくこと					
【授業計画】 第 1 回 韓国語、朝鮮語、そしてハングル…人工語である韓国語の創出過程と韓国語を取り巻く国際環境などを眺める。 第 2 回 ハングルの文字と発音…母音と子音 第 3 回 ハングルの文字と発音…バッチム（終声子音）を含めた子音を中心に発音の習得を試みる 第 4 回 簡単な音読、文字の復習① 第 5 回 簡単な音読、文字の復習② 第 6 回 基本的なあいさつ…出会い／別れのあいさつと発音全般を練習 第 7 回 自己紹介…私は○○です。丁寧語の作り方を学習 第 8 回 基本的な日常会話 1…これは何ですか。疑問文の作り方を学ぶ 第 9 回 ビデオ鑑賞…朝鮮半島の日常や言語生活が伝わる映画を鑑賞。その感想をまとめ次週まで提出 第 10 回 基本的な日常会話 2…花は○○です。形容詞について学ぶ 第 11 回 基本的な日常会話 3…○○はどこですか。簡単な位置関係について学習する 第 12 回 動詞の活用…否定文の 2 種類。小テスト実施（次週解説） 第 13 回 基本的な日常会話 4…○○へ行きます 第 14 回 復習と音楽鑑賞（文法と並行）…簡単な韓国語の歌を聴取しながら、歌詞の内容を学習 第 15 回 総まとめ					
【教科書】 巖基珠、金三順、金天鶴、吉川友丈『韓国語の初歩 改訂版』白水社（2010年初刷）					
【参考書・参考資料等】 韓日辞書（たとえば『日韓・韓日辞典』民衆書林）					
【成績評価の方法等】 期末試験（50%）、授業に対する姿勢・課題解決度（30%）、小テスト（20%）で評価する					
【履修要件等】 ・相乗効果が高いため、韓国・朝鮮語 I との並行履修をおすすめする。 ・4～5月の学習がその後の進展と楽しさをほぼ決定づけるので、必ず参加すること。					

区 分	専門外国語科目	担当教員	徐亜文		
授業科目	中国語 I				授業形態
英 訳	Chinese Communication I				単独
配当年次	1 年次 前 期	必選別	選択	単位数	1 単位
【授業の目的】 中国語の入門授業である。中国語の発音から始めて、基本的な単語、文法事項、簡単なあいさつ用語を学習する。テキストに沿って授業を進め、中国語の基礎知識を系統的に学ぶ。					
【授業の到達目標】 ゼロから中国語を学ぶ学生が、中国語の発音の記号であるピンインを読めるようになり、基本的な中国語単語250ほどを覚えて、簡単な文法事項を習得し、中国語で簡単な挨拶ができるようになります。					
【授業の概要】 ・まず中国語の発音からスタートする。中国語の発音の仕組み、四声、母音、子音を丁寧に勉強する。 ・そして中国語の単語を簡単なものから音と意味の両方でしっかり覚えていき、300語の習得を目指す。 ・文法については、最も簡単で基本となる文型から学習し、「私は日本人だ」「これは何ですか」「どこへ行くか?」「これはいくら?」「家族は何人?」のような文型を学習し使えるようにする。 ・また授業の初めと終わりのあいさつ、感謝や謝る時の言い方など、簡単な挨拶をできるようにする。					
【準備学習(予習・復習)】 毎回授業の時に、復習する内容と予習する内容を詳しく宿題として出す。次回の授業の時に、前回の宿題の内容について質問したり、提出物を提出してもらったりする。					
【授業計画】 第 1回 ガイダンス、中国語の基礎知識、テキストなどの使い方についての説明、声調と単母音。 第 2回 発音編Ⅰ 子音 第 3回 発音編Ⅱ 複合母音 鼻母音を伴う母音 第 4回 発音Ⅲ 発音のルール、声調の組合せの発音練習、あいさつの言葉、教室用語 第 5回 第一課 人称代名詞、「是」の文 第 6回 第二課 指示代名詞①、疑問詞疑問文、「的」の用法①、副詞 第 7回 第三課 動詞の文、「所有」を表す“有”、省略疑問の“呢” 第 8回 第一課～第三課の復習 第 9回 第四課 量詞、指示代名詞②、形容詞の文、“几”と“多少” 第 10回 第五課 数字、日付・時刻を表す語 第 11回 第六課 「完了」を表す“了”、「所在」を表す“在”、助動詞①“想” 第 12回 第四課～第六課の復習 第 13回 第七課 介詞①“在”“离”、「存在」を表す“有” 第 14回 発音～第四課の復習 第 15回 第五課～第七課までの復習 期末試験					
【テキスト】 竹島金吾監修 伊景春・竹島毅著 『<最新2訂版>中国語はじめの一步』白水社(2012年初版 2017年第20刷)					
【参考書・参考資料等】 杉野元子・黄漢青『大学生のための 初級中国語24回』白帝社(2014年)					
【成績評価の方法等】 期末試験40%、積極的な授業への取り組み30%、宿題練習30%で評価する					
【履修要件等】 中国語に興味を持ち、本気で中国語を覚たい者					

区 分	専門外国語科目	担当教員	徐亜文		
授業科目	中国語会話 I				授業形態
英 訳	Chinese Conversation I				単独
配当年次	1 年次 前 期	必選別	選択	単位数	1 単位
【授業の目的】					
初めて中国語に接する学生を対象に、中国語会話の基礎となる発音、基本的な単語、基本的な文法を身に付けることを目的としている。とくに中国語発音の基礎に重点を置いて、正しい中国語の発音を取得させる。					
【授業の到達目標】					
中国語の発音の基礎となるピンインが読めて、基本的な単語250語の発音と意味を学び、基本的な文型を学習し、自己紹介やあいさつ、簡単な日常会話ができるようになることを目指す。					
【授業の概要】					
<ul style="list-style-type: none"> 中国語の発音の仕組みを最初に紹介し、それから発音の基礎となる母音、子音、声調を学習する 基本的な単語を、音と意味の両方で練習し、250語を覚えて使えるようにする。 基礎的な文法を学び、「最初出会う時の会話」「食事する時の会話」「買い物する時会話」「やりたいことを話す時の会話」のような日常会話を学習し、使えるようになるまで繰り返し練習する。 					
【準備学習(予習・復習)】					
毎回授業の時に、復習する内容と予習する内容を詳しく宿題として出す。次回の授業の時に、前回の宿題の内容について質問したり、提出物を提出してもらったりする。					
【授業計画】					
第 1 回 中国語についての紹介、第 1 課 中国語の声調 四声					
第 2 回 第 1 課 単母音、複合母音					
第 3 回 第 2 課 子音					
第 4 回 第 3 課 鼻母音と人称代名詞					
第 5 回 第 4 課 声調の変化と声調の組合せ					
第 6 回 第 5 課 動詞“是”、“吗” 疑問文、名前の聞き方と答え方					
第 7 回 第 6 課 動詞述語文、副詞“也”“都”、選択疑問文					
第 8 回 第 7 課 “呢” 疑問文、指示代詞①、“的”					
第 9 回 第 8 課 疑問詞疑問文、助動詞“想”、時点①					
第 10 回 第 9 課 形容詞述語文、反復疑問文、“吧”					
第 11 回 第 10 課 所有を表す動詞“有”、量詞、“几”と“多少”					
第 12 回 第 11 課 文末の“了”、時点② 時刻、前置詞“在”					
第 13 回 第 12 課 連動文、時点③年月日と曜日、疑問詞“怎么”					
第 14 回 第 1～6 課 総合復習					
第 15 回 第 7～12 課 総合復習					
期末試験					
【テキスト】					
杉野元子・黄漢青『大学生のための 初級中国語24回』白帝社（2011年初版、2014年第4刷発行）					
【参考書・参考資料等】					
竹島金吾監修 伊景春・竹島毅『《最新2訂版》中国語はじめての一步』白水社（2012年1版2017年第20刷）					
【成績評価の方法等】					
試験40%、課題に取り組む姿勢30%、宿題練習30%で評価する					
【履修要件等】					
中国語に関心があり、本気で中国語を話せるようになりたい者。					

区 分	専門外国語科目	担当教員	平瀬 洋子			
授業科目	コミュニケーション英語					授業形態
英 訳	Communication English					単独
配当年次	1年次	後期	必選別	選択	単位数	1 単位
【授業の目的】 外国人と英語で対話できるようになることが目的です。最初に「聞き取る力」を身につけ、各自が「聞き取れたという達成感」を得て、さらに次のステップへ進みます。簡単な挨拶から日常会話、趣味、文化などについて、外国人と自由に会話できるようになることを期待する。						
【授業の到達目標】 英語で外国人に自分の意志を伝えることができること。						
【授業の概要】 英語で外国人との会話を成立させるには、相手の話す内容を十分理解できる力と、適切な返答ができる力が必要になる。授業では、まず「聞く力」を養成し、次に会話に必要な表現を習得させる。さらに、習得した表現を用いて、会話練習へと発展させる。日本人だけのクラスでは、間違いを恐れて英語でのプレゼンテーションを嫌う傾向があるが、幸いにもこのクラスには留学生がいるので、各グループで日本文化についてプレゼンテーションをさせる予定。						
【準備学習(予習・復習)】 1. 毎週、教科書を必ず予習しておくこと。 2. 授業中でできなかった問題をもう一度やってよく復習すること。						
【授業計画】 第 1 回 授業の進め方について説明 第 2 回 Unit 1 重要なインフォメーションを聞きとる 第 3 回 Unit 2 数字を聞きとる 第 4 回 Unit 3 質問のポイントを聞きとる ・会話練習 第 5 回 Unit 4 指示を聞きとる 第 6 回 Unit 5 交通機関の利用方法を聞きとる ・会話練習 第 7 回 Unit 1~5 の復習・プレゼンテーション 第 8 回 Unit 6 場所の説明を聞きとる 第 9 回 Unit 7 エンターテインメントに関する情報を聞きとる 第 10 回 Unit 8 物の位置を聞きとる ・会話練習 第 11 回 Unit 9 順序を聞きとる 第 12 回 Unit 10 人の特徴を聞きとる Unit 13 身体、病気に関する表現を聞きとる 第 13 回 Unit 6~10 の復習・プレゼンテーション 第 14 回 Unit 17 5W1H を聞きとる 第 15 回 会話練習とまとめ						
【テキスト】 菅原安彦他『Listening Capsules (カプセル・リスニング)』三修社 (ISBN4-384-32022-1 C1082)						
【参考書】 必要に応じて、授業で紹介する。						
【成績評価基準】 課題・小テスト：30% , 授業への取り組み：20% , 中間・期末試験：50%						
【履修要件】 授業にはテキスト、配布されたプリント、辞書を持参すること。						

区 分	専門外国語科目	担当教員	金 延祐			
授業科目	韓国・朝鮮語Ⅱ					授業形態
英 訳	Korean Language Ⅱ					単独
配当年次	1年次 後期	必選別	選択	単位数	1単位	
【授業の目的】 韓国・朝鮮語Ⅱでは、前期授業において獲得した授業成果、すなわち、ハングル文字と発音の習熟をもとに、基礎的な文法と日常会話の能力を高めていく。また、日本語との対照言語学的な観点からの理論的な面白さを満喫する一方で、実際に使える表現能力の上達を目指す。						
【授業の到達目標】 この授業の到達目標は下記のとおりである。 ・教科書で習った基本文型を使って、より豊かな文章を構成できる。 ・一年間にわたる外国語学習や視聴覚資料を通じて取得した言語や文化から、韓国の社会が理解できるようになる ・韓国語の習得や文化の理解から、自国文化や日本語の特性を再認識できるようになる。						
【授業の概要】 この授業ではとくに、基本的な文法と語彙をもとに、読み・書き・聞き・話す四機能をバランスよく伸ばしていく。主な内容は、前期で学んだ用言（述語）の基本的な活用に加え、過去形、数詞、よく使う言い回しなどである。前期と同様、必要に応じて韓国映画・K-popといったメディアも活用する。						
【準備学習(予習・復習)】 (復習) 配付プリントを整理し前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問としてまとめること (予習) 次回の項を読んでおくこと、不明点をチェックしておくこと						
【授業計画】 第1回 誕生日はいつですか…言語使用で占める「数字」の重要性を再確認 第2回 どこに住んでいますか…普通語と丁寧表現の中間に位置する「略待上称形」を学習する。 第3回 先生いらっしゃいますか…今まで学習してきた丁寧表現をさらに高めた、尊敬表現を習う。 第4回 何をお探してでしょうか…前回学んだ尊敬語の略待上称形にあたる用言の活用を学ぶ。 第5回 先週日曜日は何をしたのですか…過去形（丁寧表現、略待上称形）について学習する。 第6回 何を召し上がりますか…好き・嫌いの表現と、意志や推測の表現を学ぶ。小テスト（次回解説） 第7回 ビデオ鑑賞…朝鮮半島の現状を表す映像を鑑賞 第8回 何時に会いましょうか…時空間に関連する表現と願望、提案、勧誘などの表現を学習する。 第9回 最近水泳をしています…動詞の進行形と可能・不可能など能力を表す表現を学習する。 第10回 土曜日には宿題をして、日曜日には休みます…用言活用で、並列・先行・様態を表す表現を学ぶ。 第11回 市役所から近いですか…第8回で学んだ時空間の表現に、場所・方向を表す表現を学ぶ。 第12回 電車で行けば約10分ほどかかります…仮定法、語尾の不規則変化を学習。小テスト（次回解説） 第13回 私は昨日友たちと宮島へ行きました…過去行った行為に関する表現を使った会話に挑戦 第14回 昨日見た映画は面白くありませんでした…日本語とは全く異なる連体形の仕組みを学習。 第15回 総まとめ						
【教科書】 巖基珠、金三順、金天鶴、吉川友丈『韓国語の初歩 改訂版』白水社（2010年初刷）						
【参考書・参考資料等】 韓日辞書（たとえば『日韓・韓日辞典』民衆書林）						
【成績評価の方法等】 期末試験（50%）、小テスト（20%）、授業に対する姿勢・課題解決度（30%）で評価する						
【履修要件等】 相乗効果が高いため、韓国・朝鮮語会話Ⅱとの並行履修をおすすめする。						

区 分	専門外国語科目	担当教員	金 廷祐		
授業科目	韓国・朝鮮語会話Ⅱ				授業形態
英 訳	Korean Conversation Ⅱ				単独
配当年次	1年次 後期	必選別	選択	単位数	1 単位
<p>【授業の目的】 この授業の目的は、韓国語全般にわたる基礎的な知識や活用方法の獲得である。具体的には、文字や発音の熟達に重点を置いた前期の成果に、読み・書き・聞き・話しの四機能をバランスよく接続して、次のステップである中級クラスへの準備作業を完成することである。</p>					
<p>【授業の到達目標】 この授業の到達目標は下記のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な文型と語彙を用いて、簡単な日常会話ができるようになる。 ・教科書で学んだ基本文型を用いて簡単な文章を構成する力を習得できる。 ・使用頻度の高い語彙や表現を、様々な状況に応じた会話のなかで表現できるようになる。 					
<p>【授業の概要】 後期授業では、前期で獲得した授業成果、すなわち、ハングル文字と発音の習熟をもとに、基礎的な文法と日常会話の能力を高めていく。また、日本語との対照言語学的な観点からの理論的な面白さを満喫する一方で、実際に使える表現能力の上達を目指す。とくに、基本的な文法と語彙をもとに、読み・書き・聞き・話す四機能をバランスよく伸ばしていく。前期同様、映画・K-popといったメディアも活用し、学習した言語を早く使ってみよう。</p>					
<p>【準備学習(予習・復習)】 (復習) 配付プリントを整理し前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問としてまとめること (予習) 次回の項を読んでおくこと、不明点をチェックしておくこと</p>					
<p>【授業計画】</p> <p>第 1 回 好き嫌いの表現…韓国との助詞の使い方の差異を学ぶ 第 2 回 買い物…買物の会話と同時に数詞を学ぶ 第 3 回 時間と曜日に関する表現…時間に関する全般的な会話を学ぶ 第 4 回 食事に関する表現…朝鮮半島の一般的な食文化とその形容詞を学ぶ 第 5 回 昨日したこと…過去形の作りを学び、簡単な文章を作ってみる 第 6 回 状態・状況に関する表現…現在・過去進行形について学ぶ 第 7 回 能力に関する表現…可能動詞と不可能動詞について学習する。小テスト (次回に解説) 第 8 回 意志・願望に関する表現…未来形に準ずる表現を学ぶ 第 9 回 メディア学習…朝鮮半島の日常や言語生活を音楽や映画というメディアを通じて学習する 第 10 回 自分の考えを伝える…今まで学んだ単語を用いて引用文を作ってみる 第 11 回 簡単な歌詞の歌を聞いて歌おう…韓国の歌 (ハンサラム＝一人) を聴いて歌詞内容を学ぶ 第 12 回 電話をかける…通話中に使う表現を学ぶ。小テスト実施 (次回に解説) 第 13 回 ハングルでナゾナゾ…今まで学んだ単語を用いて、疑問文形式のナゾナゾゲームを楽しむ 第 14 回 友達との会話…今まで学んだことを友達との会話で実践してみる 第 15 回 総まとめ</p>					
<p>【教科書】 巖基珠、金三順、金天鶴、吉川友丈『韓国語の初歩 改訂半』白水社 (2010年初刷)</p>					
<p>【参考書・参考資料等】 韓日辞書 (たとえば『日韓・韓日辞典』民衆書林)</p>					
<p>【成績評価の方法等】 期末試験 (50%)、小テスト (20%)、授業に対する姿勢・課題解決度 (30%) で評価する</p>					
<p>【履修要件等】 相乗効果を高めるため、韓国・朝鮮語 Ⅱとの並行履修をおすすめする。</p>					

区 分	専門外国語科目	担当教員	徐亜文		
授業科目	中国語Ⅱ				授業形態
英 訳	Chinese Communication Ⅱ				単独
配当年次	1 年次 後 期	必選別	選択	単位数	1 単位
【授業の目的】 中国語の初級授業である。前期の続きで、入門の時より少し難易度の高い中国語の基本的な単語、文法事項、文章、日常会話を学習する。テキストに沿って授業を進め、中国語の基礎知識を系統的に学ぶ。					
【授業の到達目標】 入門授業を受けた学生が、より難易度の高い中国語の単語300語を学んで覚えて、より複雑な文法事項を学習し、より長い会話ができるようになります。 中国語検定試験準4級に合格できるレベルにする。					
【授業の概要】 ・中国語の単語を音と意味の両方で学び、新しい300語を覚えて使えるようにする。 ・文法はより複雑の文型を学習し、「アメリカに行ったことがある」「授業に行かないといけない」「中国で買ったのだ」「中国語を話せる」「ちょっと休憩する」「北京は東京より寒い」のような文型を学んで使えるようにする。 ・自己紹介、教室用語、買い物する時、食事の時、趣味のこと、能力のことなどを言えるようにする。					
【準備学習(予習・復習)】 毎回授業の時に、復習する内容と予習する内容を詳しく宿題として出す。次回の授業の時に、前回の宿題の内容について質問したり、提出物を提出してもらったりする。					
【授業計画】 第 1回 発音の復習 第 2回 第七課までの復習 第 3回 第八課 「時間量」を表す語、助動詞“得”、介詞“从” 第 4回 第九課 「過去の経験」を表す“过”、“是～的”の文、介詞“跟”“给” 第 5回 第八課 ～ 第九課の復習 第 6回 第十課 助動詞“能”“会”、「動作の様態」を言う表現、動詞の重ね型 第 7回 第十一課 「動作の進行」を表す“在～呢”、“～しに来る・～しに行く”、選択疑問“还是” 第 8回 第十課 ～ 第十一課の復習 第 9回 第十二課 「比較」の表現、“的”の用法、二つの目的語をとる動詞、目的語が主述句の時 第 10回 第十二課までの会話の復習 第 11回 第十二課までの文法の復習 第 12回 自己紹介文 例文の学習 第 14回 自己紹介文 自分の自己紹介の発表 第 15回 総まとめ 期末試験					
【テキスト】 竹島金吾監修 伊景春・竹島毅著 『<最新2訂版>中国語はじめての一步』白水社 (2012年初版 2017年第20刷)					
【参考書・参考資料等】 杉野元子・黄漢青『大学生のための 初級中国語24回』白帝社 (2014年)					
【成績評価の方法等】 試験40%、課題に取り組む姿勢30%、宿題練習30%で評価する					
【履修要件等】 中国語の入門授業を受けた者、あるいは、同水準の能力を持っている者。 中国語に興味を持ち、もっと中国語を知りたい、本気で中国語を話せるようになりたい者。					

区 分	専門外国語科目	担当教員	徐亜文		
授業科目	中国語会話Ⅱ				授業形態
英 訳	Chinese Conversation II				単独
配当年次	1 年次 後 期	必選別	選択	単位数	1 単位
【授業の目的】 半年間ほど中国語を勉強した学生を対象に、より難易度の高い中国語の単語、文法を学習し、中国語会話の基礎を身に付けることを目的としている。会話練習を重点においてやや長い会話ができるようにする。					
【授業の到達目標】 前期で学んだ250語の上に、さらに新しく300語を学んで覚えて、そしてより複雑な文法を学習して、より長くて複雑な会話ができるようになることを目指す。 中国語検定試験準4級に合格できる水準になる。					
【授業の概要】 ・単語を音と意味の両方で学び、新しい単語300語を覚えて使えるように練習する。 ・より難易度の高い文型を学習し、応用できるように練習する。 ・より長くて複雑な会話を学び、「予定を尋ねる時」「場所を尋ねる時」「昨日のことについて尋ねる時」「これまでの経験を尋ねる時」などのようにいろいろな場面での会話を練習し、使えるようにする。					
【準備学習(予習・復習)】 毎回授業の時に、復習する内容と予習する内容を詳しく宿題として出す。次回の授業の時に、前回の宿題の内容について質問したり、提出物を提出してもらったりする。					
【授業計画】 第 1 回 第 12 課までの復習 第 2 回 第 13 課 指示代詞②、存在を表す動詞“在”“有” 第 3 回 第 14 課 動詞の後の“了”、動詞の重ね型、前置詞“给” 第 4 回 第 15 課 経験の“过”、動作量補語、前置詞“跟” 第 5 回 第 16 課 時間量、時間量補語、前置詞“从”“到”“离” 第 6 回 第 17 課 助動詞“会”、助動詞“能”、主述述語文 第 7 回 第 18 課 比較、“多”+形容詞、年齢の尋ね方 第 8 回 第 19 課 “是～的”構文、100 以上の数、金額の言い方 第 9 回 第 20 課 状態補語、二重目的語、“有点儿” 第 10 回 第 21 課 方向補語、進行の“在”、禁止 第 11 回 第 22 課 結果補語、処置文、助動詞“可以” 第 12 回 第 23 課 受け身文、使役文、補語のまとめ 第 13 回 第 24 課 近い未来、“越来越～”、複文 第 14 回 第 13～18 課 総合復習 第 15 回 第 19～24 課 総合復習 期末試験					
【テキスト】 杉野元子・黄漢青『大学生のための 初級中国語24回』白帝社（2011年初版、2014年第4刷発行）					
【参考書・参考資料等】 竹島金吾監修 伊景春・竹島毅『《最新2訂版》中国語はじめての一步』白水社（2012年1版2017年第20刷）					
【成績評価の方法等】 試験40%、課題に取り組み姿勢30%、宿題練習30%で評価する					
【履修要件等】 中国語に興味を持ち、本気で中国語を話せるようになりたい者。					

区 分	専門外国語科目	担当教員	平瀬 洋子			
授業科目	ライティング					授業形態
英 訳	Writing					単独
配当年次	2 年次	前期	必選別	選択	単位数	1 単位
【授業の目的】 この授業では、パラグラフライティングが書けるようになることが目的です。今後、グローバル社会では「話す」「聞く」だけではなく、「読み」「書き」の能力も求められます。パラグラフの書き方をプロセスを踏みながら理解し、各自が日本語と英文の書き方の違いを発見し、「読み手が理解できる英語」を書けるように目指します。						
【授業の到達目標】 自分の意見をはじめ、様々なパラグラフライティングが正確に書けるようになること。						
【授業の概要】 これまで中学・高校では、短い日本語のセンテンスを英語に訳す作業が英作文だったが、これからは、自分の意見を英文で書ける能力が必要になる。そのために、センテンスのレベルからパラグラフのレベルに達成するためのスキルをライティングプロセスの中から学び、様々な種類のパラグラフの書き方を練習します。また、正しい英文を書くには、英文法の知識が不可欠なので、英文法の復習もします。						
【準備学習(予習・復習)】 1. 毎週、教科書を必ず予習しておくこと。 2. 課題の提出日は厳守すること。						
【授業計画】 第 1 回 授業の進め方について説明 第 2 回 Unit 1 Pre-writing 第 3 回 Unit 2 Drafting 第 4 回 Unit 3 Revising/Proof-reading 第 5 回 Unit 4 Narratives 第 6 回 Unit 5 Description 第 7 回 Unit 1~5 の復習 ・ 中間試験 第 8 回 Unit 6 Classification 第 9 回 Unit 7 Contrast 第 10 回 Unit 8 Problem Solving 第 11 回 Unit 9 Cause and Effect 第 12 回 Unit 10 Personal Opinion (1) 第 13 回 Unit 10 Personal Opinion (2) 第 14 回 練習問題の復習 第 15 回 Unit 6~10 の復習 期末試験						
【テキスト】 坂本政子他『Thoughts into Writing (パラグラフ・ライティング入門)』成美堂 (ISBN978-4-7919-5038-6 C-1082)						
【参考書】 必要に応じて、授業で紹介する。						
【成績評価基準】 課題・小テスト：30%、授業への取り組み：20%、中間・期末試験：50%						
【履修要件】 授業にはテキスト、辞書を持参すること。						

区 分	専門外国語科目	担当教員	平瀬 洋子			
授業科目	時事英語					授業形態
英 訳	Current English					単独
配当年次	2 年次 後期	必選別	選択	単位数	1 単位	
【授業の目的】 簡単な英語のニュースを読んだり、聞いて理解できるようになることが目的です。そのために、この授業では、時事英語の知識を身につけます。						
【授業の到達目標】 時事英単語を理解でき、簡単な英語のニュースを聞いたり、紙媒体で読んだ後、そのニュースについて、自分の考えが述べられるようになること。						
【授業の概要】 毎時間、授業の最初に時事英語を理解するために、プリントで時事英単語を学習します。テキストでは、現在、日本企業が取り組んでいる新しい社員教育制度について書かれた英文を読んだり、CDでその内容を聞いたりします。今後、受講生の皆さんの就職にも係わる内容なので、皆さんにも意見を伺いながら、授業を進めます。また、時間的に余裕があれば、NHKのBSで放送されている ABC News のディクテーションにも挑戦します。						
【準備学習(予習・復習)】 1. 毎週、教科書と英単語のプリントは、必ず予習しておくこと。 2. 授業で理解出来なかった点があれば、質問してよく復習しておくこと。						
【授業計画】 第 1 回 授業の進め方について説明 第 2 回 Unit 1 Suntory University Preps Workers for Global Growth 第 3 回 Unit 1 Dialogue 第 4 回 Unit 2 Japan Productivity Grains Key to Starving off Decline 第 5 回 Unit 2 Dialogue 第 6 回 Unit 3 Japanese Office Worker's Stunning iPhone Sketches 第 7 回 Unit 1~3 の復習・ABC News のディクテーション 第 8 回 Unit 4 Perceptions of Space, from Japan to the World 第 9 回 Unit 4 Dialogue 第 10 回 Unit 5 Robots to Descend on Haneda Airport 第 11 回 Unit 5 Dialogue ・ ABC News のディクテーション 第 12 回 Unit 6 Japanese Scientists Go High-tech to Repair Ancient Indonesian Temple 第 13 回 Unit 6 Dialogue 第 14 回 Unit 7 Omotenashi Hospitality Boosts Japan 第 15 回 Unit 4~7 の復習と練習問題の実施 期末試験						
【テキスト】 Peter Ngno『Global Leadership Adventures』松柏社						
【参考書】 必要に応じて、授業で紹介する。						
【成績評価基準】 課題・小テスト：30% ， 授業への取り組み：20% ， 中間・期末試験：50%						
【履修要件】 授業にはテキスト、配布されたプリント、辞書を持参すること。						